

Ⅱ 国語科の問題と 結果・分析

1 出題のねらいと評価

- | | |
|---|-----------------|
| 1 | 国語への関心・意欲・態度 |
| 2 | 話す・聞く能力 |
| 3 | 書く能力 |
| 4 | 読む能力 |
| 5 | 言語についての知識・理解・技能 |

大問・ 領域	小問	設問のねらい	評価				
			1	2	3	4	5
① 読むこと (文学的 文章)	問1	文章の展開に即して内容をとらえることができる。				○	
	問2	文章の展開に即して内容をとらえることができる。				○	
	問3	表現に即した登場人物の心情を読みとることができる。				○	
	問4	表現に即した登場人物の心情を読みとることができる。				○	
	問5	登場人物の人柄について、自分の考えを適切に書くことができる。	○		○	○	
② 書くこと		資料に基づき、自分の考えを適切に書くことができる。	○		○		
③ 読むこと (説明的 文章)	問1	接続語に注意して文章の展開を読みとることができる。				○	
	問2	説明を整理して具体的な内容を読みとることができる。			○	○	
	問3	説明を整理して具体的な内容を読みとることができる。				○	
	問4	文章に表されているものの見方や考え方を理解し、自分の見方や考え方を書きながら、確かめることができる。			○	○	
④ 言語事項	(1)	「学年別漢字配当表」に定められた漢字を書くことができる。					○
							○
							○
							○
							○
	(2)	「学年別漢字配当表」に定められた漢字を読むことができる。					○
							○
							○
							○
							○
	(3)	同音異義語、四字熟語、故事成語、慣用句などの意味や用法に注意し、適切に使うことができる。					○
							○
							○
							○
							○

2 正答と主な誤答例

大問・領域	小問	正 答	主な誤答例
① 読むこと 文学的文章 の読解	問1	㊦ 高校に進学せず、漁師になること ツグモ叔父と漁師をやること	弟子みたいに使ってくれないか (会話の一部をそのまま書き抜いたものが多い)
	問2	エ (船を持った…いるから)	ウ (ツグモ叔父の立場を責めるような…)
	問3	ア (怒ったような)	ウ (悲しそうな)、エ (不安そうな)
	問4	A まじめ	不思議
		B 困惑	
		C 素直に	
	問5	○例何でも気軽に話せて、一緒にいる と心が和むような存在。 (漁師として働く姿にあこがれ、自分も 共に働きたいと望んでいる。)	自分の思うままに気楽に生きている人 少しおかしいと思いながら尊敬している 非科学的な人 中途半端な人
② 書くこと	【誤答傾向】		
③ 読むこと 説明的文章 の読解	問1	エ ところが	イ そして
		ア たとえば	ウ だから
	問2	ヒヨロヒヨロで弱い。	
	問2	太くてたくましい。	
	問3	栄養	
		刺激	
	問4	測定の対象に決めた植物の成長だけが 抑制される (測定の対象になった植物の成長だけが 抑制されてしまう) も可	植物は、さわられると感じ、背丈の低い植物に なる
④ 言語事項	(1)	1 試 (みる)	志みる
		2 似 (る)	
		3 利己	利個、理己
		4 展覧	展(下が衣、) 覧(下が貝、8画目が又)
		5 垂 (らす)	
	(2)	1 めいろう	みょうりょう
		2 ようい	ようえき
		3 ヘ (る)	え(る)、と(る)、へだて(る)
		4 おぎな (う)	
		5 きぼ	
	(3)	1 ア (週間)	イ (週刊)
		2 ウ (納める)	ア (収める)
		3 ウ (細くして)	イ (皿にして)
		4 イ (矛盾)	
		5 ア (一進一退)	

単位：％

大問・領域	小問	問 題	正 答	国の正答率	市の正答率	自校の正答率
1 読むこと 文学的文章	問1	「①面白い冗談」とありますが、これは具体的にどのようなことですか。本文中の言葉を使って十五字以内で書きなさい。	(例) ・高校に進学せず、漁師になること ・ツグモ叔父と漁師をやること	/	48	
	問2	②ツグモ叔父の機嫌が悪くなってきた理由として適切なもの ア イサムがずうずうしい頼みごと イ 漁業がこの町では…将来性がない ウ ツグモ叔父の立場を責めることを… エ …中途半端な自分にいらだって	エ (船を持った人に雇ってもらうこともなく、中途半端な自分にいらだっているから)	* 42	64	
	問3	母の表情として適切なもの ア 怒ったような イ うれしいような ウ 悲しそうな エ 不安そうな	ア (怒ったような)	/	33	
	問4	イサムの気持ちを次のようにまとめてみました。A～Cにあてはまる言葉を本文中から探し、Aは三字、Bは二字、Cは三字で書き抜きなさい。	A まじめ	/	60	
			B 困惑		70	
			C 素直		71	
	問5	イサムはツグモ叔父をどんな人だと思っていますか。自分の言葉でまとめ、二十字～三十字以内で書きなさい。	(例) 何でも気軽に話せて、一緒にいると心が和むような存在。(漁師として働く姿にあこがれ、自分も共に働きたいと望んでいる。)	* 18	30	

*は類似した国研の問題の正答率を表す。

(1) 結果の概要

① 資料文について

中学2年生の主人公イサムは、漁をして暮らすツグモ叔父に好感を持っており、卒業後は猟師になって、叔父と共に働きたいと考えている。自分の中途半端な立場を卑下し、進学を勧める叔父と、何とか叔父に自分の願いを聞き届けてもらおうとするイサムの心情が交錯する場面である。生徒と同年代の主人公の心情を共感的に理解することができる適材であるが、作品の舞台が昭和30年代であり、方言も用いられていることから、感情移入して読み取りを進めることがやや難しかったようである。

② 設問ごとの結果

【問1】「冗談」の内容を答えず、ツグモ叔父が冗談と受け取った言葉自体を答える傾向が見られた。

また、「本文中の言葉を使って答える」という指示が守れずに、本文中から「書き抜いた」誤答が目立つ。求められる答え方を指導する必要がある。

【問2】「ツグモ叔父の機嫌が悪くなってきた」という表現の後をしっかりと読まず、前半で判断してしまっている。誤答には、「ツグモ叔父の立場を責めるようなことをイサムが言った」を選んだものが多かった。イサムがツグモ叔父の反応を見ながら話の内容を変えていることに気が付けば、イサムがおじを責めているわけではないことに気が付くと思われる。

【問3】「了見が違う」という言葉のニュアンスを理解できていない生徒が多かったのではないだろうか。誤答の多くは、マイナス要素を含むものを選んではいいるが、本文中の母の言葉「同じフネでも了見が違う」から母が叔父に対してどういう気持ちをもっているかを読み取れば正答が導き出せる。

【問4】文章全体を見渡してイサムの気持ちを読み取る設問である。三字、二字の熟語で答える条件から、安易に「不思議」と答える例も見受けられた。柔軟な対応が欲しい。

【問5】登場人物の人柄について「自分の言葉でまとめて書く」問いであるが、正答率が低く(昨年度も27%)、無答も見られた。大問2「書くこと」に無答がほとんどなかったのとは対照的である。原因は、設問が「自らの生活に根ざしているか否か」によって書き方が左右されることが考えられる。実体験について書くことに抵抗はないが、読み取ったものに対して自分の考えを書くことは、指定された文量にかかわらず、抵抗が大きいようである。また、誤答の中には「中途半端な人」「非科学的な人」といった部分的な言葉を拾っただけのものが見受けられた。場面をしっかりと押さえること、心情を間接的に表現しているところを的確に押さえることを学習し、それを積極的に書こうとする姿勢を身に付けさせたい。

(2) 指導のポイント

読み取ったことを基に、自分の考えを書くことを授業で繰り返して指導しましょう。

大問・領域	小問	問 題	正 答	国の正答率	市の正答率	自校の正答率																	
② 書くこと		次のアンケート結果を見て、あなたが感じたことを次の注意に従って書きなさい。 【注意】 ①原稿用紙には題名、氏名を書かず、本文より書き始めること。 ②原稿用紙の正しい使い方を守ること。 ③八行以上で書くこと。 (十五行で書ききれなかった場合は、欄外に書いてもかまいません。) ○ 帰宅後、寝るまでに一番時間を使うこと。																					
		<table border="1"> <caption>アンケート結果の割合</caption> <thead> <tr> <th>活動</th> <th>割合</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>テレビを見る</td> <td>42%</td> </tr> <tr> <td>勉強する</td> <td>13%</td> </tr> <tr> <td>メールを打つ</td> <td>11%</td> </tr> <tr> <td>家族と話す</td> <td>8%</td> </tr> <tr> <td>本を読む</td> <td>7%</td> </tr> <tr> <td>ゲームをする</td> <td>7%</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>2%</td> </tr> <tr> <td>無回答</td> <td>2%</td> </tr> </tbody> </table>	活動	割合	テレビを見る	42%	勉強する	13%	メールを打つ	11%	家族と話す	8%	本を読む	7%	ゲームをする	7%	その他	2%	無回答	2%		*	76
活動	割合																						
テレビを見る	42%																						
勉強する	13%																						
メールを打つ	11%																						
家族と話す	8%																						
本を読む	7%																						
ゲームをする	7%																						
その他	2%																						
無回答	2%																						

(1) 結果の概要

① 資料について

「中学生が帰宅後寝るまでに一番時間を使うこと」についてのアンケート調査結果を取り上げた新聞記事の内容であり、生徒の日常の生活を内省させるすぐれた資料であった。

② 出題の意図

調査実施時期が2学年の2学期であることを考慮して、段落数や内容の書き方に細かい条件は設けなかった。また、本市の国語力向上プログラムの中核をなす「書くこと」の定着状況を把握するために、「感じたことを書く」という設定とした。

③ 結果の概要

正答率が76%に達したのは、「感じたことを8行以上」書ければ正答とするという採点の基準に無理がなかったためと思われる。

誤答の傾向としては、自分が文章全体から何を言いたいのかを考えず、複数の感じたことをただ羅列して書いただけのものが目立った。また、誤字・脱字が多く、原稿用紙の使い方ができていない答案も数多い。

なお、「あなたが感じたこと」という聞き方はあいまいで幅が広すぎるので、今後は「テレビを見る時間が勉強する時間より長いことについてどう思いますか」「あなたが一番時間を使うことは何ですか？このアンケート結果とくらべてどこが同じでどこが違いますか？」などのように、はっきり根拠を挙げて自分の意見を述べさせるような問いかけをすることで、PISA型読解力の向上につながるとと思われる。

(2) 指導のポイント

答案を分析してみると、アンケート項目6つのいずれかについて書きやすいものを選択できる設定であり、生徒にとっては自分の体験を重ね合わせて書くことが容易であったようである。書く力が足りないと言われる今の中学生であるが、自らの生活体験については、書く意欲を十分持っていることがわかった。

一方、小学校での既習事項がしっかりと身に付いていない傾向もうかがえる。誤字・脱字、当て字も多く、適切な用語を選んで文章を書くという力が不足している。また、話し言葉を混用する例や「なので」を接続詞として用いる例も数多く見受けられた。今後は、生徒が書きやすいテーマを選定して意欲を喚起し、それを持続させながら用字や文章を書く技能の向上を図っていく工夫が必要である。

また、指導側も従来の減点式の作文指導から指導方法の転換を図っていかなければならない。今回の採点方法（○か×か、誤りが3つまでならば○）には違和感があったと思われるが、このような採点方法で作文指導を進めることが、生徒の「書くこと」に対する抵抗を減らし、自信も少しずつついていくのではないかと考えられる。指導者の意識の転換を図ることが「書くこと」の力を付けていくことにつながるのではないだろうか。

思いつくままに書くのではなく、文章のまとまりを考えて書く力を付けましょう。

大問・領域	小問	問 題	正 答		国の正答率	市の正答率	自校の正答率
③ 読むこと 説明的文章	問1	A B にあてはまる言葉を次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。	A	エ(ところが)	/	64	
			B	ア(たとえば)	/	62	
	問2	①段落に「マメを土に埋めず、暗黒の箱の中で育てれば、モヤシができる。では、モヤシをつくるマメを土の中に植えた場合、土の中の暗黒でマメはどのように育つのだろうか。」とありますが、暗黒の箱の中で育てたモヤシの莖と、土に埋めたモヤシの莖はどう違いますか。それぞれ十字以内で、本文中の言葉を使って書きなさい。	箱の中	ヒョロヒョロで弱い。	* 63	62	
			土の中	太くてたくましい。	* 63	81	
	問3	⑦段落に「そうではない」とありますが、(1)「そうではない」と、どういう理由を否定しているのですか。また、(2)正しい理由はどういうものですか。それぞれを説明した各文の空欄にあてはまる二字の言葉を本文中から書き抜きなさい。	(1)	栄養	/	83	
			(2)	刺激	/	88	
	問4	⑬段落に「この現象」とありますが、「この現象」とはどんな現象ですか。「～現象」という形になるようにして二十五字以内で書きなさい。	測定の対象に決めた植物の成長だけが抑制される (測定の対象になった植物の成長だけが抑制されてしまう)も可		/	35	

*は類似した国研の問題の正答率を表す。

(1) 結果の概要

① 資料文について

暗黒の箱の中で育てたモヤシの茎と、土に埋めたモヤシの茎の育ち方を論理的に書いたすぐれた文章であり、生徒にとっても興味深く読めるので、全体的によく理解できていたようである。文学的文章に比べると、平均正答率も高かった。

ただ、問4のように25字で答えるという指示を限定した記述式の問題の正答率が低く、「読み取ったことを基にして書く」という学習に習熟していない傾向が伺える。

② 設問ごとの結果

【問1】空欄の前後の文の関係から適切な接続詞をあてはめるという、説明的な文章の問題としては基本的な問いである。正解者は両方とも正答となる場合が多く、片方だけ正答になる例は少なかった。全体的に見ると、きちんと読み取ることができる生徒とできない生徒がはっきりしている傾向が表れている。

【問2】「暗黒の箱の中で育てたモヤシの茎と、土に埋めたモヤシの茎はどう違いますか」という問い方は、本文全体を熟読することが求められ、PISA型読解力の問題としても成り立つ問いであった。また、このように学習者にとって答えやすい問いかけをすることが授業でも求められている。無答もほとんど見受けられなかった。

【問3】土に埋めたモヤシの茎は、「栄養」があるから育つのではなく、土と接触する「刺激」によってたくましくなる、ということを読み取る問いである。本文中からこの2語のキーワードを見つけて答える形式の問題であったのだが、本文読解のキーポイントの部分でもあり、「穴埋め」ではない記述式の問いかけをすべきだったかもしれない。

【問4】直前の段落の内容を押さえて読み、「その謎」の内容が分かっていたら容易に答えられる設問である。誤答の多くが、直前の「植物は、さわられると感じ、背丈の低い植物になる」をそのまま抜き出したものであり、正答を上回る割合があった。これは、12段落にあるキーワード「測定の対象に決めた植物の成長だけが抑制される」を熟読せずに、解答を急いだせいと思われる。この時期の生徒の実態から考えても、もう少し熟考してほしいところである。また、「植物は」を主語にすると「～現象」という文末に結びつかないことに気が付けば、正答に近づくことができた生徒も多くなったのではないと思われる。

(2) 指導のポイント

- キーワードを押さえて、正確に文章を読む学習を大切にしましょう。
- 授業中も、学習者にとって答えやすい問い掛けをすることを工夫しましょう。

大問・領域	小問	問 題	正 答	国の正答率	市の正答率	自校の正答率
④ 言語事項	(1)	1 登頂を <u>ココロ</u> みる。	試（みる）	* 71 書き 平均	49	
		2 話し方が親に <u>ニ</u> る。	似（る）		83	
		3 <u>リコ</u> 的なものの考え方。	利己		29	
		4 <u>テンラン</u> 会に出す絵。	展覧		40	
		5 糸を <u>タ</u> らす。	垂（らす）		59	
	(2)	1 <u>明朗</u> な人柄。	めいろう	* 89 読み 平均	78	
		2 容易な問題。	ようい		74	
		3 長い年月を <u>経</u> る。	へ（る）		45	
		4 不足分を <u>補</u> う。	おぎな（う）		86	
		5 <u>規模</u> を縮小する。	きぼ		86	
	(3)	1 新聞（ア 週間 イ 週刊 ウ 習慣 ）の標語を考える。	ア（週間）	/	28	
		2 税金を（ア 収める イ 治める ウ 納める ）。	ウ（納める）	/	84	
		3 目を（ア 三角にして イ 皿にして ウ 細くして）喜んだ。	ウ（細くして）	/	66	
		4 君のたてた推理はあちこち（ア 蛇足 イ 矛盾 ウ 助長 ）だらけだ。	イ（矛盾）	/	90	
		5 試合は（ア 一進一退 イ 一朝一夕 ウ 一長一短）の接戦となった。	ア（一進一退）	/	89	

*は類似した国研の問題の正答率を表す。

(1) 結果の概要

① 設問の意図

漢字の読み書きは、小学校段階での漢字がどの程度定着しているのかを見るために「学年別漢字配当表」中の漢字から、10題を出題した。また、「生きてはたらく」語彙の定着を調べるために、日常生活でよく用いられる慣用句や中学校1年生で学習した故事成語等の既習事項を中心に
出題した。

② 設問ごとの結果

【利己】「利己」は現行の小学校の教科書では6年（下）「熟語の成り立ち」に「利己的」という三字の熟語として掲載されているが、漢字の「書き」の中では最も正答率が低かった。誤答は「利個、理個」が多い。「己」の意味を知らずに（語彙量が足りないために）、漢字が書けないということではないかと思われる。

【展覧】「展」の8画目に「ノ」をつけたものが多かった。「展」や「垂」の書き方について指導する機会が多いが、定着度は低い。

【経る】「経」は現行の小学校の教科書では5年（上）「言葉の研究レポート」に掲載されている。本文中には「経過」という熟語で扱われるが、「へ（る）」という読み方の指導が足りないのかもしれない。新出漢字の読み方には細心の注意を払って指導する必要性を感じる。

【新聞週刊】「習慣」という誤答が相当数あった。「新聞週刊」という語彙自体が子どもたちに無いのではないだろうか。「ウ」と答えた生徒が多く「新聞習慣」＝新聞を読む習慣をつける標語、と理解しているのかもしれない。

【目を細める】中学校1年次「オツベルと象」で既習の慣用句であるが、実生活で使う頻度が少ないためか、正確な理解ができずにいる傾向が見られる。

【矛盾】同じく1年次の既習語句であるが、日常生活で使うことも多いためか正答率はかなり高い。生活と密着した学習内容の正答率は高いことが分かる。

(2) 指導のポイント

漢字の読み書きに関しては、昨年度の調査結果に比べて、「読み」「書き」とともに平均正答率が下がっている。小学校で既習の漢字についても、日頃あまり使わない語については、漢字一字一字の意味を確認したり、字形の似たものは、どこが違っているのか確認させたりする細かな指導が求められる。

語句の指導に関しては、授業の中で理解した語彙としてとどめるのではなく、実生活の中で学んだ語句を使用する機会をもたせたい。

言語事項全般について、形式的・機械的に継続指導すればよいというわけではなく、様々な機会を通して、語彙を増やす指導を工夫する必要性を強く感じる。

- 「学年別漢字配当表」中の漢字の習熟について、一層指導の充実を図りましょう。
- 日常生活で使用する語彙を増やし、活用できる力を付けさせましょう。

5 まとめ

【調査結果の概要】

＜全 体＞

- 漢字、慣用句、同音意義語等の身近な語彙がよく身に付いている。
- 示された課題について、文章を丁寧に読み、正確に記述する力が不足している。

＜読むこと＞

- 「叙述に即して内容をとらえ、自分の考えを書く」ことや、「書き手の論理の展開を的確にとらえ、内容をまとめて適切に書く」ことなど、記述式の解答を苦手にする傾向が見られる。

＜書くこと＞

- 身近なテーマに対して、文章にまとめようとする意欲が伺える。
- 文章にまとめたり、自分の考えをわかりやすく伝えようとしたりする工夫が足りない傾向が見られる。

＜言語事項＞

- 身近な語彙がよく身に付いているが、耳慣れないものの正確な意味が定着していないようである。

【今回の調査結果を踏まえた指導上の改善点】

＜読むこと＞

- 内容を正確に読み取った上で、獲得した情報を基に自分の言葉にまとめて、他者に正確に伝える力を付けることが求められている。

＜書くこと＞

- 自らの主張を効果的に伝えるために、構成を意識した文章を書く力を身に付けさせたい。

＜言語事項＞

- 語彙を豊かにし、意味を理解した上で、使用語彙として読み書きできるような力を身に付けさせたい。

中学校国語正誤表

ページ	問	正	誤
5	① 問 5	㊦	○例
	②	【誤答傾向】 P. 9 参照	【誤答傾向】
	④ (3) 1	主な誤答例 イ (週刊) ウ (習慣)	主な誤答例 イ (週刊)
6	問 4 C	素直に	素直